

■『新エコノミクス 都市経済学』(ISBN4-535-04121-9)正誤表

本文中に以下の誤りがございました。訂正して、お詫び申し上げます。

- 59 ページ 下から 10 行目 ×家賃が上昇 ○家賃が低下
- 66 ページ 11 行目 ×持家 ○借家
- 67 ページ：図 3-4 (図中の記号) × H_2 ○ H_2' × H_2' ○ H_2
- 100 ページ 下から 2 行目 × t/n に変化 ○ x/n に変化
- 155 ページ 10 行目 × Q_1 点での生産量 ○ Q^* 点での生産量
- 194 ページ 17 行目 ×集積の経済は地価上昇分 $P_H'E_1P_HP_H'$ に等しい
○集積の経済の増加分は地価上昇分 $P_H'E_1E_0P_H$ に等しい

.....
また、104 ページの練習問題の問 1 について、より適正な問題設定という観点から以下のように訂正させていただきます。

- 問 1.88 ページのように住宅に固定資産税を課税すると、本当に住宅価格は低下するのでしょうか。(4-6)式によれば、固定資産税によってユーザーコストが上昇した分だけ家賃が上昇すれば、住宅価格は不変です。しかし、住宅価格 P は住宅供給量 S の減少にともなって上昇すると考えるのが自然なので、固定資産税は住宅量を減少させる結果、住宅価格を上昇させることになるでしょう。固定資産税は価格を上昇させる？ これは奇妙な話ですね。しかし、いま述べた事柄は確かに現実には発生します。こうした価格の時間的変化を矛盾なく描いてみてください。